

平成30年度事業報告

平成30年度は、事業計画に基づき、市当局をはじめ、関係者のご支援とご協力のもと、従業員一丸となり取組を進めた結果、極めて好調に運営することができた。

宿泊者については、前年度を2,609人上回る17,360人を確保することができた。

1万7千人台の宿泊者は、平成17年度以来であり、ホテルオープン当初の水準に近いものとなった。

全体収支では、669万6,007円の赤字となったが、キャッシュフローベースの収支（減価償却費の要因を除いた現金収支）では926万289円の大幅な黒字となった。

これについては、客室のリニューアル効果に加え、7月に発生した豪雨災害関連の宿泊需要が重なったことなどが大きな要因となった。

一方、平成8年に会館が建設されて以降、抜本的な施設改修を実施していないため、施設・設備の老朽化対策が喫緊の課題であり、そのための資金の確保とともに、長期的視野に立った運営計画の検討が、引き続きの課題となっている。

1. 部門別の状況について

(1) 宿泊部門

年間宿泊者数は、ネット予約の拡充、客室のリフォーム効果、「この世界の片隅に」のファン層の獲得などにより、大幅増の17,360人となった。

販売客室数で見ると、これまで最高であった平成9年の13,669室を上回る13,855室となり、記録を更新した。

その結果、宿泊部門の収入は、前年度の7,022万5,966円を1,646万2,128円上回る8,668万8,094円となり、23.4%の大幅な増益となった。

(2) 貸会場部門

貸会場部門は、利用者の減少に歯止めがかからず、平成29年度には年間収入が400万円を切ってしまったが、本年度はそれをさらに下回る369万4,866円まで落ち込んだ。

要因としては、営業活動を目的とする大規模利用者の減少、貸会場及び備品の老朽化、市役所新庁舎完成による貸会場の増加などに加え、豪雨災害が大きく影響したもので、今後もこの傾向が続くことが懸念される。

(3) 生活相談部門

生活相談事業は、一般財団法人への移行の際、公益目的事業と位置付けたものであり、その目的を達成するための取り組みを進めた。

具体的には、船員やその家族からの電話による生活相談や、訪船等により船員とのコミュニケーションを図った。

2. 施設運営について

(1) 保守管理業者の選定

複合建物全体の保守管理業務については、前年度と同様、(株)くれせんとの間で随意契約により委託した。

会館独自の5階以上の日常清掃、ベッドメイキング等についても、(株)くれせんとの間で業務委託契約を結んだ。

その他施設の保守管理等についても、前年と同様の業務委託契約を締結した。

(2) 設備機器の保守管理等

保守管理業者により、定期整備・点検を実施した。

故障及び不具合が生じた冷温水機や消防設備など、その都度修繕を行った。

日常的な保守点検は職員が交代で行っているが、設備の老朽化により故障は増加傾向にあり、引き続き課題となっている。

(3) 設備の改修

今年度実施した設備等の改修の主なものは次の通り。

①客室テレビの新替

全客室(45室)のテレビを19型から32型に新替するとともに、有料テレビサービスをカードレス方式に更新した。

②客室エアコン温度調節器の取り換え修理

9階及び10階の洋室全室（14室）のエアコン温度調節器の取り換え修理を実施した。

③その他

冷温水機循環ポンプ2台および大浴場温度制御装置の交換など、会館を維持するための改修を適宜実施した。

3. 職員関係について

本年5月1日現在の従業員は、正職員7名（館長を除く）、常用パート職員4名、アルバイト職員6名の総勢17名で会館運営を行っている。

職員の待遇については、4月に昇給を行うとともに、7月および12月に賞与（2ヶ月）を支給した。

4. 呉市からの借入金について

一昨年度から返済を再開した呉市からの借入金については、返済計画に基づき、本年度290万円を返済し、3,480万円に縮減した。

5. きんろうプラザ指定管理について

呉市から指定管理者に選定されている、きんろうプラザの指定管理者業務については、本年度も引き続き誠実に業務を遂行した。